

我が社の得意技 ③ 「ものづくり」は「ひとづくり」から

有限会社 タカヨシ工業所 (港)



工屋と術さ関
シ社上の技出庄
カヨ真のみ油庄
タ所真の社生る部
業写同でれ連

有限会社タカヨシ工業所は、会長の曾我部善男(そがべたかお)氏とご子息で社長の曾我部善生(そがべよしき)氏が平成5年4月に創業した。社名の「タカヨシ」は、会長と社長の名前「タカ男」と「ヨシ生」に由来している。建設機械や農業機械などの油圧関連部品の製造・加工を得意とし、精密な加工が求められる特殊フランジ(配管継手の一種)やコネクタを、高品質・高精度で仕上げる技術を有している。従業員13名の企業ではあるが、自社内に切削加工部門の他に溶接部門を設け、多品種少量生産から大量生産まで、顧客の幅広い注文に短納期で対応している。

また、大手工作機械メーカーと専属契約を結び、工作機械の据え付けからメンテナンス・作業指導を行うなど、ものづくりを支援する体制も確立している。

■ 熟練の技を次世代へ

曾我部善男会長は御年86歳。14歳から旋盤一筋72年、現役の技術者だ。現在も作業場に立ち続け、熟練の技を必要とする精密加工部品の最終仕上げなどを担当している。

その旋盤技術は「匠の技」と称され、東予高校や新居浜工業高校で技術指導を行うほか、西条市と新居浜工業高等学校専門学校が実施した熟練技能者の



「ものづくり大賞」の表彰状を手に...

動作解析事業で匠の技を次世代に伝えるため協力する曾我部善男会長

技を可視化する動作解析事業で被写体として参画するなど、次世代のものづくりを担う人材育成に積極的に取り組んできた。去る2月に発表された「第4回ものづくり日本大賞」ではその功績が認められ、青少年支援部門で四国経済産業局長賞を受賞した(先月号の当コーナーで既報)。

■ 社内請負制の導入

タカヨシ工業所では「社内請負制」を導入している。同社が従業員に業務を発注し、それを受けた従業員は工場内の機械を借り受けて作業を行い、製品の出来高によつて報酬を受け取るという仕組みだ。「これは社員教育の一環。作業報酬からは機械や電気の使用料が差し引かれる。従業員はおのずと、不良品を出さないよう効率性を意識するようになる。独立心も強くなり、いいものを作りたい、腕を上げたいと思うようになる。それがいいものづくりにつながる」と曾我部善生社長は語る。

タカヨシ工業所が作り出す小径・複雑形状の油圧関連部品は、1台が数百万円から数千万円する建設機械や農業機械、高所作業車などに用いられる。個々の部品は大きくないが、その部品の不具合が多大な損失を招き、また時には人命にかかわる事故を引き起こす可能性がある。

同社の企業理念「自分が作った品物がどういった使われ方をするのか」、「全体的なものの方ができれば不具合はなくなる」という言葉には、

「小さい部品がなければ大きい機械は動かない。ものづくりに誇りと責任を持つてほしい」という思いが込められている。



多くの中小企業にとつて、人材の確保や社員教育は大きな課題となっています。教育現場では熟練技能者が有する技を伝え、社内でも「ものづくり」に対する社員教育を積極的に行うタカヨシ工業所を取り組みは、今後の西条市のものづくり産業を担う人材の育成に大きく貢献しています。

サイクスからのお知らせ

新コーディネーター

三浦人志氏が就任



三浦人志氏 (株)西条産業情報支援センターの新コーディネーターに、

三浦人志(みうらひとし)氏が就任しました。

■ 経歴

西条市出身。1960年生。駒澤大学経営学部を卒業後、1983年に株式会社愛媛銀行に入行し、主に東予一円の支店を歴任。

2012年3月、産業情報支援センターのコーディネーターに就任。

■ コメント

西条市は四国有数の農業地帯であり、「西条農業革新都市総合特区」の指定も受けています。地の利を活かした農工商連携や、市内に多く立地する多様なものづくり企業をつなぎ、新たな価値が生み出されるよう、コーディネーターとしての役割りをしっかりと果たしていく所存です。